



産業づくりビジョンについて

小豆島町の産業づくりのビジョン

I 地場産業

民の自立的な力を発揮
創意工夫で作り出す魅力
若者の大胆な発想
醤油蔵など文化としての魅力

II 農業・漁業

人びとの食の源
環境や景観をつくる基盤
海の幸、山の幸などの6次産業化
多様な担い手の確保、育成

III オリーブ

農業、健康、平和など普遍的な魅力
新品種の開発など栽培の持続性
環境にやさしいオリーブ栽培
オリーブを通じた国際交流

IV 文化・アート

独創性を持つ新しいビジネスを応援
島内外の文化交流による魅力向上
さまざまな産業をつないでいく
人びとの心と暮らしを豊かにする

V 医療・福祉・ 教育・子育て

産業や人びとの暮らしの向上の基盤
地域包括ケアによる健康づくり
障がい福祉の充実
未来の産業を担う人づくり

VI 観光・国際化

島の魅力を磨いて、国内外に発信
人のぬくもりのあるおもてなし
体験、学び、見聞を深める観光、国際化
お互いの文化を理解・尊重

～ 互いにつながりを持ちながら、産業の新しい可能性をひろげる ～

人びとの暮らしと社会の源

“食”

に心をこめて産業をつくっていく

I 地場産業の考え方

基本的な視点

- ①地場産業は、民の自立的な力や創意工夫で魅力をつくっていく視点が必要
- ②時代の流れによって、絶え間ない変化を求められることから、大胆な発想や斬新なアイデアが必要
- ③小豆島の地場産業は、島の文化としての側面を持っていることから、蔵や木桶、景観などを社会資本として捉える視点が必要
- ④地域資源を活かし、さまざまな産業をつなげて、地場産業の振興を図っていくことが必要

基本目標

【 ①原点に立ち返る 】

- (1)企業家精神など基本を大切にする
- (2)顧客のニーズと満足が一番に考える
- (3)社会・環境に貢献する視点で考える
- (4)自己の強み、島の強み(魅力)を活かす

【 ②魅力を全て活かす 】

- (1)島の農業、漁業、オリーブを活用する
- (2)社会の変化に対応し大胆な発想を取り入れる
- (3)UJターン者の経験と知恵を活かす
- (4)応援してくれる関係機関を全て活かす

【 ③文化としての産業 】

- (1)醤油蔵、木桶等は、社会資本として守る
- (2)歴史、伝統等を物語りにして商品へ織り込む
- (3)体験、学び、見聞する地場産業をつくる
- (4)民の自由な発想で新しい食の産業をつくる

Ⅱ 農業・漁業の考え方

基本的な視点

- ① 農業・漁業などの1次産業は、島の環境や景観を形成する基盤となることから、社会資本政策としての視点が必要
- ② 海の幸、山の幸、畑の幸を活かし、さまざまな産業とつながり循環する、6次産業化の取組みが必要
- ③ 1次産業を未来に向けてつなげていくためには、若者、UJターンの方、元気な高齢者など、多様な担い手の確保が必要
- ④ 人が人らしく健康的な生活を営むため、また地域の文化・伝統を守るうえで、農業・漁業のある暮らしは、とても重要

基本目標

【 ①環境を守る 】

- (1) 耕作放棄地、遊休地の解消を進める
- (2) 瀬戸内海の水質、生態の保全を図る
- (3) 農地、漁港、海岸等の基盤整備を行う
- (4) 有害鳥獣対策を推進する

【 ②魅力を高める 】

- (1) 先進事例に学び、工夫を重ねてさらに磨く
- (2) 6次産業化により魅力を高める
- (3) 遊び、学び、楽しむ1次産業をつくる
- (4) 地域資源の魅力高め、担い手をつくる

【 ③未来へつなぐ 】

- (1) 地域づくりの役割を担う1次産業を目指す
- (2) 文化景観を彩る農業・漁業を進める
- (3) 有機・減農薬栽培を推進する
- (4) 1次産業を通じた国際交流を進める

Ⅲ オリーブの考え方

基本的な視点

- ①オリーブは、島の地域資源である農業・健康・平和につながることから、社会資本政策としての視点が必要
- ②オリーブ栽培を普遍的な産業にしていくためには、島の気候風土に適した品種の開発と病害虫対策が必要
- ③日本のトップワンであり続けるためには、平和・健康のイメージをより高め、発信していく戦略が必要
- ④商工業としてのオリーブは、民間の自由な発想と創意工夫によって、力強い産業に成長していくことが重要

基本目標

【 ①栽培の持続 】

- (1)病害等に強い新品種を開発する
- (2)地域資源の魅力を高め、担い手をつくる
- (3)耕作放棄地を活用し、圃場を拡大する
- (4)有害鳥獣対策を推進する

【 ②魅力を高める 】

- (1)健康長寿の島づくりを推進する
- (2)小豆島オリーブ公園を活かした健康づくり
- (3)東京2020オリンピック・パラリンピックの活用
- (4)環境にやさしいオリーブ栽培を推進する

【 ③未来へつなぐ 】

- (1)オリーブの文化的な魅力を高める
- (2)医療、福祉、教育につなげていく
- (3)オリーブを通じた国際交流を進める
- (4)民の力による多様な商品の開発を進める

IV 文化・アートの方

基本的な視点

- ①文化・アートは、独創性を持つ新しいビジネスのゆるやかなきっかけにもなりうる
- ②アーティスト、クリエイター、建築家などの独創性は、島の内外の活発的な交流と関係を生み出す力を持っている
- ③文化・アートを活かした産業は、社会への貢献と精神的な満足を求める人びとのニーズにマッチしている
- ④文化・アートは、人びとの心と暮らしを豊かにする社会性を持っている

基本目標

【①つながりを磨く】

- (1)アーティスト等とのつながりを大切にする
- (2)大学、芸術団体、研究者と連携・協力する
- (3)さまざまな産業をつないでいく
- (4)文化・アートの力で、地域の絆をつくる

【②魅力を高める】

- (1)島に住むひとが魅力を正しく理解し行動する
- (2)学術的な調査・研究・活動を推進する
- (3)瀬戸内国際芸術祭2019を推進する
- (4)新しいビジネスにつなげる

【③未来へつなぐ】

- (1)文化・アートを通して学びの拠点をつくる
- (2)医療、福祉、教育とつながっていく
- (3)保存・継承に向けた仕組みをつくる
- (4)世界中の人と価値を共有し、つながる

基本的な視点

- ①医療・福祉・教育・子育ては、産業や人びとの暮らしの向上につながる基盤ともなることから、社会資本政策としての視点が必要
- ②小豆島中央病院を核とした地域包括ケアの推進は、雇用の確保、有能な人材のUターン・Iターンへの推進、健康づくりや介護予防による財源の捻出、高齢者や障がい者の活躍など、産業づくりの視点からも重要
- ③人と人がつながり、支え合い、だれもが安心していられる「ぬくもりと希望の島」を目指すためには、障がい福祉の充実が不可欠
- ④教育、子育ては、ふるさとを愛し、未来の産業を担う人づくりであることから、島が一つとなり、体系的で持続的な取り組みが重要

基本目標

【①健康づくり】

- (1)小豆島中央病院を一步一步充実していく
- (2)地域包括ケアによる健康づくり、介護予防を推進する
- (3)有能な医師などさまざまな人材を呼び込む
- (4)高齢者の活躍による産業の活性化を進める

【②障がい福祉の充実】

- (1)ひとりひとりに合ったきめ細やかな学びの場づくり
- (2)誰もが安心して生活が送れる暮らしの場づくり
- (3)個性を活かし、いきいきと働ける場の充実
- (4)さまざまな世代が集いふれあえる場の充実

【③教育】

- (1)幼・保、小、中、高の一貫教育を推進する
- (2)子育て応援を充実する
- (3)生涯学習と文化・芸術活動を推進する
- (4)ぬくもりと希望の島づくりを推進する

VI 観光・国際化の考え方

基本的な視点

- ①小豆島の観光・国際化の地域資源である自然、環境、景観、文化、伝統、平和等について、社会資本政策としての視点が必要
- ②島を訪れる人びとが小豆島の宝(魅力)を体験し、学び、見聞を深め、心が豊かになる観光・国際化を目指す
- ③ゆったりと流れる時間、人のぬくもりが詰まったおもてなしなどの癒しを観光・国際化につなげることが必要
- ④お互いの文化を理解・尊重し、島の豊かな多様性と春・夏・秋・冬の季節性を活かした観光を目指す

基本目標

【 ①基盤をつくる 】

- (1)自然環境の保全と調査・研究等を推進する
- (2)農業・漁業の再生を進める
- (3)情報環境の整備と情報発信を高める
- (4)航路、バスなど交通の利便性を高める

【 ②魅力を高める 】

- (1)瀬戸内国際芸術祭2019を推進する
- (2)食を楽しみ、学び、見聞する仕組みをつくる
- (3)長期滞在を視野に入れた観光・国際化を目指す
- (4)アート・建築・デザインを活用する

【 ③未来へつなぐ 】

- (1)インバウンドに対応した英語教育を推進する
- (2)文化遺産の調査、保存、活用を推進する
- (3)地場産業の文化的価値を高める
- (4)民間の自由な発想による観光商品や海外進出